

平成 27 年度
第 1 回
総合教育会議議事録

日時 平成 27 年 6 月 2 日 (火)

場所 いわき市役所第三会議室

第1回総合教育会議 議事録

- 1 日時 平成27年6月2日（火） 午後1時～2時30分
- 2 場所 いわき市役所第三会議室
- 3 出席者 いわき市長 清水 敏男
いわき市教育委員会 教育長 吉田 尚
いわき市教育委員会 教育委員 馬目 順一
いわき市教育委員会 教育委員 蛭田 優子
いわき市教育委員会 教育委員 山本 もと子
いわき市教育委員会 教育委員 根本 紀太郎

4 協議事項

- (1) 総合教育会議の設置及び教育大綱の策定について
 - (2) 自由討議（フリーディスカッション）
-

1 開会

(司会)

本日は、お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。
ただいまより、「第1回いわき市総合教育会議」を開催します。
はじめに、清水市長よりごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

(清水市長)

いわき市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

吉田教育長をはじめ、教育委員の皆様には、日ごろより、本市教育の充実・発展、そして、子どもたちの健全育成のために御尽力をいただいておりますことに対し、改めまして、心から深く感謝申し上げます。

さて、地方教育行政を取り巻く環境が大きく変化する中、この4月から教育委員会制度が見直されることとなり、本市といたしましても、こうした新たな枠組みを踏まえ、

総合教育会議を設置することといたしました。

本日は、その第1回目の会議を開催するものであります。

多様化、複雑化する現代社会におきまして、子どもたちの育ちを考えた時、教育分野だけの取り組みでは、解決することが困難な問題も生じてきており、まさに市を挙げての取組みが求められております。

この「総合教育会議」という新たな体制のもと、これまで以上に、教育委員会と市との連携・協力を深め、闊達な議論を交わしながら、子どもたちの健やかな育ちと、豊かな学びを支える教育先進都市の実現に向けて、ぜひ御一緒に、努力を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくようお願い申し上げます。

3 教育長あいさつ

(吉田教育長)

それでは教育委員会を代表いたしまして一言ごあいさつを申し上げます。

清水市長には、日頃から、本市教育行政の進展に特段の御理解御配慮いただいていることを改めまして感謝申し上げます。ありがとうございます。

特に生徒会長サミットでありますとか、様々な取り組みにも足繁くお運びいただき、御理解を賜っておりますこと、重ねて感謝を申し上げます。

さて、教育委員会では東日本大震災以降、いわきの復興に向けた教育メッセージというものを発表しておりまして、その中では、「地域が人を育み、人が地域をつくる」という基本理念を掲げ、震災を経験したいわきの子ども達が困難を乗り越え、自立して社会を生き抜くとともに、いわきを支え、日本を支え、未来に飛躍するため、子どもたちの心と体を育む豊かな土壌づくりに取り組んでいく所存でございます。

教育委員会制度改正により、本年4月から新たに設置されましたこの総合教育会議でございますが、市長におかれましては早々に第1回目の会議をお開きいただいたこと、心から感謝申し上げます。

どうか、市長と率直な意見をここで交わしまして、これまで以上の連携強化を図りながら子どもたちの教育環境の一層の向上に努めて参りたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。本日はお世話になります。

4 協議事項

(1) いわき市総合教育会議の設置及び教育大綱の作成

(事務局説明：津田地域創生課長)

お手元の第1回総合教育会議資料に基づいて説明させていただきます。

総合教育会議の設置及び教育大綱の作成について説明したいと思います。

まず一番目の概要でございますが、既に御案内のとおり、今般の教育委員会制度の改

正によりまして、本年の4月から新たに、首長は総合教育会議を設け、教育の振興に関する施策の大綱を策定することとされたことを受けまして、本市におきましても、総合教育会議の設置及び教育大綱の策定を進めるものであります。

二番目の本市における対応部署についてでございますが、総合教育会議に関する事務につきましては、行政経営部地域創生課が所管とされております。

事務局の体制として、教育委員会事務局や子どもみらい部と連携協力を密にしながら進めさせていただきたいと思っております。

三番目の総合教育会議についてでございますが、まず(1)の会議の構成ですが、本日御出席をいただいております市長・教育長・教育委員の皆様計6名から構成するものであります。

(2)の当教育会議の招集等につきましては、会議は市長が招集し、原則公開とするというようなルールになっております。

また、(3)の総合教育会議での協議事項でございますが、法律におきましては、協議事項は次の枠の中の3つとされております。

1つ目は大綱の策定・変更、2つ目は教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、3つ目は児童、生徒等の生命、身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置ということでございます。

本年度は、1番目の大綱の策定を中心に議論を進めて参りたいと思っております。

また、その下のイメージ図のオレンジ色で塗ってあるところを御覧いただくと、この会議の効果が記載されております。

一つ目として、市長が教育行政に果たす責任や役割が明確になるとともに、公の場で教育政策について議論することが可能となります。

二つ目としては、市長と教育委員会の皆様協議・調整をすることにより、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行に当たることが可能となるということもございます。

次に四番目の教育大綱についてでございます。

(1)の教育大綱の内容でございますが、この大綱は、教育の目標や施策の根本的な方針を定めるものであり、国の教育振興基本計画を参酌しながら、市長と教育委員会が協議・調整をして、市長が策定するということになってございます。

(2)の教育大綱の改定時期等についてでございますが、特に定めはございませんが、今年度見直すこととしております総合計画後期基本計画等との整合を図る観点から、概ね5年程度を目安に改定していくということを予定しております。

次に五番目の総合教育会議の開催、それから大綱策定の流れでございます。

当教育会議につきましては、今年度4回程度の開催を想定してございます。

下の図を御覧いただければと思っております。

本日6月2日に第1回目の総合教育会議、この中で教育大綱策定の進め方等について御協議をいただきます。

また、2回目は8月下旬頃を予定しておりますが、大綱の素案につきまして、庁内の検討状況を御報告し、それについて御協議いただきたいと思います。

また、3回目を11月頃、それから4回目を1～2月頃ということで、表にもございますように総合計画の見直し、あるいは後ほど御説明をさせていただきますが、いわき創生総合戦略の関連もございまして、そうした作成の流れとのタイミングを見ながら、この4回程度の組み合わせで開催をして参りたいと考えております。

説明は以上になります。

(清水市長)

今の説明に質問やご意見等はございませんか。

(山本委員)

いわき市総合教育会議が設置されることになりまして、市長と教育委員会の十分な意思疎通が図られましていわきの子どもたちの教育がより一層一貫したものになることを私たちは期待しております。よろしくお願いたします。

まず、設置要綱につきましてですが、内容的にも、市民の皆様にお示しになるときにこれで問題はないと思います。

いくつかの市のものを照らし合わせてみましたけれども、また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項も読みましたが、問題はないと思います。

ただ、これを示す時に、なぜ総合教育会議が行われるのかという目的の部分です。

市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、いわき市の教育の課題、あるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の進展を図るために、総合教育会議が出来たんですよ、というようなことを発信していただきたいと思います。

以上です。

(津田課長)

おっしゃる通りで、ありがたい御意見でございます。

この場の協議の内容は、この要綱にも第7条に記載をしておりますが、市民の皆様に関心を示すことを予定しておりますので、その議事録の公表の際に、いただいたご意見を踏まえて、なるべく、狙い・効果・中身の議論の経過を、わかりやすく噛み砕いて市民の皆様に関心を示すことを心掛けて参りたいと思います。

(清水市長)

効果のあがるような総合教育会議にならなければいけないと思いますのでよろしくお願ひします。

それではこの点についてはよろしいですか。

それでは、協議事項の二番目に入ります。

フリーディスカッションということで、本日のテーマは、「今後の時代に対応したひとづくり」についてであります。

それに先立ちまして、今回市が進めております「いわき創生」に向けた取り組みについて説明させていただいた後、皆さんから御意見をいただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

(津田課長)

それではこちらのスライドの方で簡単に説明をさせていただきたいと思ひます。

お手元の資料を御覧ください。

本日3つのところでご説明させていただきますが、1つ目は国が今、地方創生をどういった形で進めているのか。

2つ目はいわき市の状況・課題を現段階でどのように把握しているのか。

3つ目はこれらを踏まえて市の取り組みを、今後どのように進めていくのかというところを御説明させていただきたいと思ひます。

まず、昨年9月ですが、国のまち・ひと・しごと創生本部が発足しました。

また、11月には法律が成立して、これに基づいて年末に長期ビジョン、それから総合戦略がそれぞれ策定されたところであります。

創生法におきましては、国の総合戦略を勘案して、都道府県、そして市町村がそれぞれ総合戦略を策定することとされております。

まず、国の長期ビジョンの内容を御説明いたしますと、基本的認識といたしましては、人口減少時代が本格的に到来してくるというようなところで、今後の基本的視点として東京一極集中を是正すること、また、若い世代の就労・結婚・子育てに関する希望を実現するというような視点が示されております。

また、目指すべき将来の方向性として、活力ある日本社会の維持のために、国全体の人口減少に歯止めをかける。

また、若い世代の希望を実現するというところで、今国全体の合計特殊出生率は1.43ポイントですが、国のアンケートによりますと、若い世代の希望が実現すれば1.8程度まで向上できるというような見込みの中で、2060年に1億人程度の人口を確保する、これが国全体の目標という形になっております。

また、総合戦略の概要でございますが、こうした時代の中で、国が政策を企画・実行

するにあたっての基本方針がいくつか示されております。

1つは従来の方針の検証ということで、今国自らがこれまで全国一律の手法によるばらまきの政策であったのではないかとというような反省があって、これからは国も地方もPDCAサイクルで評価をしながら、地域特性を考慮しながら取り組んでいく必要があるとされております。

また、今後の施策の方向性として、4点示されております。

一点目として、地方における安定した雇用を創出する。

二点目として、地方への新しい人の流れをつくる。

三点目として、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える。

四点目として、地域に合った、時代に合った地域づくりを行うというような目標が示されています。

次に、本市の状況及び課題についてであります。このグラフは、これまでの青い方は実績の数字です。それからオレンジの方は今後の推定値となります。

いわき市は、1966年・昭和41年誕生なのですが、そのあたりで、常磐炭鉱の閉鎖に伴う大きな社会的な影響があって70年にはこういった谷を迎えます。

一方、新産業都市として、ここまで人口が回復して、1998年・平成10年には36万1千人というような人口になります。

ただここから、人口減少傾向に入っていくこととなります。

こちらのスライドは、国の社会保障・人口問題研究所の推計に基づく一つの試算です。

これは、いわき市の出生率を今後1.45で推移すると仮定した場合の試算でございますが、今、2015年で32万9千人の推計人口、実際は既にこの時点で32万4千人程度ですので、この推計よりも下振れしているのですが、この数字が2030年には28万6千人、また、2060年には18万7千人余りでかなり大きな減少を強いられます。

また特に生産年齢人口の比率ですが、現在58.7%弱、これも徐々に下がって行って、オレンジ色の生産年齢が下がっているのです。この比率も下がって行って、大体50%くらいの見込みになります。

また、一番下の黒囲み白抜きの数字が、一人の後期高齢者75歳以上の人を、何人の生産年齢者が支えているかの割合ですが、今でいうと4人で1人を支えているという状態ですが、これが、2030年代や2060年代になるとかなり下がって行って、この辺りには2人で1人を支えるという状況になります。

こちらは一方で、社会動態と自然動態がいわき市としてどういう風に推移しているかということを示しています。

まず社会動態、この大きな転出の山は、先ほど申し上げた常磐炭鉱の閉山に伴うもので、その後、若干転出が転入を上回る程度で推移しておりますが、1998年以降、一

貫して転出超過となっております。

一方、自然動態は、1970年あたりは、出生者数が死亡者数を大幅に上回っています。ここから徐々に幅が縮まっていき、2003年で逆転現象を引き起こして、ここからどんどん自然動態も減少幅が広がっていきます。

全体を考えると、下側の棒グラフが0から上にあったものが、98年から逆に下側にきているということで、減少傾向が大きくなってきたという状態を表しています。

一方、この年代別の人口移動のグラフを見ると特徴的なのですが、15～19歳の世代が、20～24歳になる5年間において、高校を卒業した子がどーんといわきから姿を消している状態がこのグラフから見れます。

そこからまた戻ればいいのですが、0で推移しているということはこの流出した人口がなかなか戻ってこないということがこの数字から見られます。

一方、この緑のラインは郡山なのですが、同じようにこの世代の流出はあるものの、流出幅がいわき市よりは小さく、本市においては、よりこの傾向が大きいものと考えております。

また、どこに行ってしまったのかということですが、やはり、東京圏にほぼ半分以上6割くらいは毎年出ているということが下のグラフになります。

また、こちらのグラフは、生涯未婚率を示しております、これがいわきの男性の未婚率で、こちらは全国の男性で、どの年代もいわきの男性の方が全国平均よりも未婚率が多くて、1980年代には2%しか未婚の方がいなかったのですが、今は20%ということで、30年で10倍に増えているということがこのグラフから見受けられます。

逆に女性の方は赤い数字がいわき市の女性、緑の点線が全国の平均なので、いずれも全国平均よりもいわきの女性の方が下回っている。

この辺りの背景にどのような要因があるのかということもこれから重要な内容になっていくと考えます。

こういった状況、少子高齢化あるいは人口減少、首都圏への人口流出といった課題は、今に始まったものではございませんが、今回の国の地方創生に係る取組みは、これらの課題に取り組んでいく一つの大きなきっかけであると思っております。

国の総合戦略を参考にしながらも、このいわきをこれからどういうまちにしていくんだという自らの問題意識の下で、「市民が幸せに暮らせるまち」を創生するために、本市のあるべき姿、方向性を導き出すということが、いわき総合戦略のベースということになっていきます。

今後の予定でございますが、市といたしましては、この二つを考えています。

まず一つ目は「人口ビジョン」。

これは2060年までを見通したいわき独自の人口の将来推計であります。

また、この人口ビジョンを設定する条件として、総合戦略において、どのような政策を行うことで、先ほどのようなカーブをどの程度上振れさせることができるかというこ

とがあり、そのような様々な政策のパッケージをまとめた「総合戦略」をつくっていかうと思います。

また、中身は当然、人づくり・教育・子育てといったものを重要な政策として進めていくことを考えております。

この総合戦略をつくっていく体制といたしまして、既に庁内の推進本部をつくっております。

また、今週金曜日には庁外の皆様との戦略会議を設置し、ここでいろんな議論をしたということを考えています。

この総合戦略作成にあたっての取組みの基本的な視点でございますが、一点目は、若い世代の就労・結婚・子育てについて、どういった願望があるのか、というところを紐解きながらその希望を実現する。

また、先ほど18歳以上の子ども達が外へ出て行ってしまうという状況がありましたけれども、ヒトもモノもカネも外に出て行っている状況を、域内で回していく構造をつくる。

また、外からも呼び込めるような構造をつくるということが重要になってくるのではないかと考えます。

また、この3点を考えるにあたって、市内に様々な資源がありますが、これをもっともっと磨きをかけ、最大限活用するようにしてこの構造をつくっていくのが今必要なことです。

これらの取組みの視点により、人口動態の好循環をつくりだすことが狙いとなっております。

今、4点の視点を述べさせていただきましたが、これに対するアプローチ、現時点で考えられる柱を6点ほど考えております。

「人を生み育てる」アプローチとしては、少子化対策、いわゆる子育てや出産、結婚に関する取組み、また、医療や介護に関するものがあります。

同じように、「人をつくる」アプローチといたしましては、人材育成や教育の質の向上、また、「しごとを産み出す」として、企業誘致や創業支援、農林水産業の成長産業化、「しごとの質を高める」として、地域産業の競争力強化、知識集約型産業の創出、「いわきの魅力を高める」としては、文化・芸術・歴史・スポーツなどを磨いていくということ、最後に「人の流れをつくる」取組みとして、移住や二地域居住の促進や交流人口の拡大等を考えていきたいと思っております。

これらいずれのアプローチに関しましても、子どもたちをどういう風に育てていくかということが少なからず関連して参りますので、今後こういったところも含めながらご意見をいただければありがたいと思っております。

先ほども少し述べましたが、既に庁内の推進本部と幹事会、そしてプロジェクトチームを、まち・ひと・しごとそれぞれに設定をして、議論を進めているところです。

また、庁外のいわき創生戦略会議、26名の方々にこれからお願いして、ここでも作業部会を設け、それぞれに関する議論をしていただきます。

庁内と庁外が意見を交換しながら、連携してより良い戦略を策定していくことを考えております。

最後に策定のスケジュールですが、人口ビジョン・総合戦略とも、庁内および庁外において、様々な分析を進めて行って、年内から1月にかけて案を策定して、パブリックコメントを経て来年2月には策定・公表して参りたいと考えております。

また、創生戦略会議、庁内の会議を開催しながら、特に今後創生の中で教育にかかわる、あるいは文化や芸術、スポーツ等にかかわる様々な提案が出てくるかと思っておりますので、それを市長に提言いただく流れの中で、今後も第2回、第3回、第4回と開く総合教育会議の中で、様々な御意見を共有して、またそこで協議をしていけたらと思っております。

(清水市長)

ただいま説明がございました。

いわき創生については、教育との関わりも非常に深いと思っておりますので、そうした視点も含めて皆様から御意見をいただきたいと思っております。

ここからはフリーです、特にシナリオはありません。

ひとつづくりについては、教育委員会ともリンクする部分があると思っておりますが、昨日、高校生の新規雇用に関する要請ということで、各企業さんや工業団地、経済団体とか歩かせていただきまして、その中で、様々な意見が出たのですが、一つとしては、市内にどんな企業があるか、この会社は何をやっているのか、そういったことについて子どもが分からないというのは仕方がないにしても、親御さんも分からない、ましてや、就職担当の先生もよく分かっていないというような話が出てきました。

あと、今現在は好景気ということもありまして、雇用に関してはどちらかというと“山”ではあるのですが、震災前は本当に行くところがないというような状況でもあり、これは世の中全体の景気動向というのが大きく左右するわけではあります、いずれにいたしましても社会に出て通用するような人材をどうやって育てていくか、あるいは語弊があるかとも思いますが、企業が採用したいと思えるような人材をいかに育てて作っていくことができるかというの、やはりこれからの教育を考えていく上で、一つの大きな視点ではないかなという風に考えています。

今まで、例えば学校の先生も勉強を教えてればいいという、その勉強と社会のズレというのがあっても、それはそれということで受け流していたという部分もあるかもしれませんが、これからの時代はそうではない、やはり、社会に出て役に立つ人材をいかに教育の中でプログラムとして取り込んで、実際に花開かせることができるかというのが大事じゃないかなと思っております。

また、だいたい高校生が、今一学年3,400人から3,500人位いますが、その内、就職

希望者が1,000人、実際に県内に留まるのは700人位だそうです。あとの300人位は東京や大都市に行ってしまうのかなということだと思うのですが、この300人をできれば都市部に行かないで、地元にもいっぱい会社があるのだから、地元で就職していただけるようになったら一番いいという風には思っております。

先ほどの説明の中で、とりあえず都会に行ってみたいというのは、若者であれば誰しも思うことであると思うのですが、専門学校や大学へ行った後ですとか、あるいは留まって就職しようという風に、ふるさとに戻るといようなことを考えていただくような教育なども大事ではないかと思えます。

それには、やはり愛着とか郷土愛とかそういうものがないと、なかなか戻ってこようという気にはならないと思えます。

例えば、今度地域学会という所で、ふるさと学とか地域学の検定試験をやろうということで、動きつつあります。

少しでもふるさとに目を向けてもらう、自分もそうですが、いわき市のことを学校の現場で学んだことがあまりなかったというのが正直なところです。

教育の中で、ふるさとを学ぶという授業があっても良いと思えます。

ふるさとから出ている偉人のこともよく知らないということにもなってしまいますので。

お子さんの時からいわき市の歴史や文化を教えてあげなければ、その子どもが外へ出たときに、いわき市とはどんなまちなのか、ということは何も喋れなくなってしまう。

そういうことを感じました。

(根本委員)

先ほど説明いただいた創生戦略会議のひとづくり部会という所と、今回の総合教育会議のリンクするところとか何かそういった位置付けとか、その辺のところをもし、お考えのところがあればご説明をいただきたいのですが。

(津田課長)

いわき創生の中で、庁内外からの「ひとづくり」に関して出された意見については、適宜、市長に報告する予定ですので、この総合教育会議において、その内容について市長から皆様にお伝えしていただけることとなると考えております。

また、この戦略会議は、固定化されたメンバーだけで議論するのではなく、色んなゲストを招いて、私も参加したい！という方に来ていただきたいので、よろしければ皆様にもご参加いただければと思います。

(根本委員)

私は、地域づくりに携わっているかどうか分からないですけども、今までやってき

たことという、学校の保護者という立場が一つあったかなあとと思います。

あとは、地域体育というかスポーツ少年団で子ども達に携わってきたのですけれども、その中で、やはり、今思うのは例えばPTAであれば子どもたちが独り立ちするための応援団であるというようなスタンスで活動してきたつもりなのですが、独り立ちするというのは、やはり自分で考えて判断して行動に移すということでしょうか。

ですから、具体的にこういう内容だということまではわからないのですが、何かをしていくというときに、便利なこととか役立つこととか成果を求めるのではなくて、少し長いスタンスになるかもしれないのですが、そういったところを視点の一つにしていただければいいかなあとと思います。

そして、独り立ちするためには、様々な経験をするべきではないかなと私は思います。

失敗する経験も、成功する経験も、そういったことが糧になっていくのではないかという風に思いながらするという事です。

それから、スポーツ少年団の方の立場から言いますと、剣道の剣友会の方ではしつげの3箇条というのがありまして、1. “はい”と返事をする 2. あいさつをする 3. 履物をそろえる、というようなことを徹底しようということをやっていたのです。

携わって30年くらいになるのですが、一番初めの時にある少年剣士が試合会場でお父さんに「お前、しっかり返事をしろ！」という風に言われていたのですが、私はたまたまその隣にいて、お父さんがその場から離れて行ったときに少年剣士が「自分じゃしないくせに」とぼろっと言ったのです。

そこで私はハッとしましたのです。自分もきちんとしているかなと思ったのです。

確かに、児童生徒には名前を言われたら返事をしろとか言っているけど、果たして私たち大人はしているのかなという所があったので、やはり、児童や生徒は大人の背中を見ているのではないかという風に思って、それからは最低限、そのことだけは大人が示していかなければならないと思うので、純粋な児童や生徒に範を示せるような大人たち先生たちがいたら良いのではないかと考えます。

(山本委員)

今後の時代に考えることは、先ほどの説明にもありました、少子高齢化はどこの市でもどこの地域でも日本全国考えられることだと思います。

それと同時に、高度情報化は絶対に避けては通れないことだと思います。

高度情報化によって、子ども個人が世界と繋がることができます。

いわきの産業でもこれは情報教育によってできます。

ですから、高度情報化とか社会経済のグローバル化と言われていますが、そういうものも避けられない。

今、外国の方もたくさん日本に入ってきて、住んでいる人や労働力で活用されている人もいますので、多種多様な文化も入ってきていますよね。

そういうことも今後考えなければならない中で、20年後、30年後を考えた場合に求められる人間はどういう人間なのかということを考えてみて、いわきの教育メッセージの中には、基本目標としまして、「困難を乗り越え、自立して社会を生き抜く人材づくり」という言葉があります。

それに向かって今まで私たちはいろいろ取り組んできました。

これからは、その中でも、もっといかなる社会の変化に直面しても、子どもたちはその社会の変化を前向きにとらえて、受け止めて、そしてひた向きに生きていくことがこれから必要なのではないかと考えます。

社会の変化に対応するのではないのです。

変化を前向きに受け止めて進めなければならない。

だから情報化然り、社会・経済のグローバル化然り、価値観の多様化もありますし、多文化共生も入ってくるので、すべて然りだと思えます。

あともう一つは、教育メッセージの基本目標の中に、「いわきを支え、日本を支え、未来へ飛躍する人づくり」とあるのですが、その中でも、先ほど市長さんがお話ししたことを話そうと思ったのですが、今、日本の良さなどがTVなどでいっぱいPRされていますね。

果たして私たちの子ども達は、いわき市民は、いわきの良さってわかるのか。

自分のクラスや子どもたちが、いわきに住む人たちとのふれあいによって、いわきの文化や歴史、いわきの魅力に触れ、自分の住むまちに誇りを持つことは絶対的に必要だと思う。

では、学校では何をやるのですか。

学校は勉強をする場ではもちろんあります。

現実に、小学校1年生がいわきの街探検なんてやっています。

いわきのまちにはどんな店があるかなとか、私達の住むまちってこんなところなんだって、小学校1、2年生が勉強している。

それから、小学校から中学校でもキャリア教育が進んでいます。

それが今後、私はきちんと指導されていくことが必要なのかなと思います。

もちろん、学校は学校としてのやるべきことがあります。

その中にやはり目標を意識して何ができるかということを考えながら取り組んでいく必要があると思うのですが、学校だけでは大変難しいです。

学校はもちろん努力しなくてははいけませんが、家庭・地域・幼稚園や保育所、学童のすべてが取り組む役割をもう一度確認しあう。

そして、同じ目標に向かって協力体制を築いていくことが今後も大切になっていくと思います。

現在も少しずつ教育委員会では行われてきております。

その中で例えば、生徒会長サミットもいわきのリーダーを育てるための基礎になりま

す。

そして、いわきグローバルアカデミーいわき志塾も、企業のトップ、いわきのトップから生き方を学び、自分の生き方を考える。

いわきにもこんな人がいるんだ！すごいな！自分もやってみようかな！と子どもたちが自問自答します。

土曜学習推進モデル事業にしてもそうです。

学校・家庭・地域が連携して、地域の教育力を高めて子どもたちの教育環境を豊かにしていくのです。

このようなものを地域の人たち、また、行政もみんなでやりながら、子どもたちにいわきの魅力を伝えて、いわきっていいなと思ってもらい、東京や都心へ勉強をしに行き、たくさん吸収してきてください。

ですが、「自分の住むいわきっていいな。」と感じられるものをやはり、みんなで取り組んでいくことが大切だと思います。

現在、公民館を中心に学校とか地域とかPTAなどすべて結んでやろうとしております。そういうことは今後も進めていくべきだと考えます。

(蛭田委員)

私は子どもを持つ母の立場から話をしたいと思いますが、子どもを立派に育てる、立派な大人にするということが人づくりなのかなと、子どもをもつ親としては思うんですけど、でも、親の力だけでは育たない。

もちろん学校で色んなことを教わっていきます。

先生の力、担任の先生の力、校長先生の力、そして学校全体の雰囲気もそうだと思います。

でも、直接的に一番関わる人は、それは今いろいろな環境の多様化によってお母さんだけではないかもしれないです。

お父さん、お爺ちゃん、お婆ちゃん、もしかしたら地域の人が一番関わっているかもしれない。

たぶん、その人たちの影響を子どもが一番多く受けているのではないかと感じます。

その人たちが思いやりのある優しい扱い方を、子どもを優しく世話してくれることによって、子どもたちもそのようになっていくのではないかと思います。

それで、そこが多分いつか帰ってくる故郷になるのではないかと思います。

先ほど市長もお話しされた、いわきがやっぱりいいな！故郷に戻りたいな！と思うのは、自分が一番関わった人、自分に一番近かった人に戻りたいと思うのではないかと思います。

だから、いわきは故郷であるけれども、人も故郷であるのだと思います。

そして、一番言いたいことは、子どもの周りにはいる大人がもっといろいろな情報を入れ

て、もっと勉強をするべきだと思います。

たぶん、忙しすぎて一番考えているのは、仕事のこと、時間短縮のこと、能率的にこなすことだと思います。

私も子どもを育てるときに、何が最優先なのかっていうのを、頭の中で知らず知らずに計算していたことがあると思うんです。

子どものことって後から聞けるから、後でゆっくり時間を取るからって、いつも後回しにしてきたような気がしています。

私は3人子どもがおりますけども、自分の子育てって何か全部失敗だったかな、って正直思っている部分があるんですが、でも、いいところも残してあげられたかな、ちょっと成功したかなっていう気持ちもあります。

これからは、地域の人も含めて子どもを育てるのは決して親だけではない、お父さんお母さん、おじいさん、おばあさん、そして世話をしてくれる人も、全部、PTAとかその団体のなかで、講演を聞けるような、いろんな人のお話を聞けるような、そういう仲間に入れてもらったら嬉しいかなと思います。

広く皆さんに子育てに参加していただけたらいいなというのが私の意見です。

(馬目委員)

総合教育会議という名前ということで、教育委員会が関係しているということであれば、生涯活動・生涯学習という考え方もこの視点に入れたらいいと思います。

先ほどご説明をいただきましたが、若い人に関する視点というのは、盛りこまれていると思います。

これは、市の方針としてもそういう風に行くということで市全体がそういう方向に向いているわけですので、当然かとは思いますが。

しかし、世の中の定年になった後の人たち、結局、日本がGNPが高いということはそういう人たちが病気になり、医者へ行き薬を買っているという、莫大な金額を税金として取っているということは否定できないことなので、総生産というのは負の面も効果があるということを思えば、お年寄りに対する思いやりなどについても触れておいた方が良いのではないかと考えます。

社会で成功するために学力を付けるにすぎないのかという教育の根本問題ですが、この問いに対する余裕も、教える側に認識してもらいたい。

教育現場は、社会の縮図であり、独立した分野ではないということを理解してほしい。

これから、医学界で、人類の長い歴史の中で、何が問題になるかということ、お年寄りのケアの中で最大の問題は認知症だと思うので、こちらの視点も気に留めてもらえたらいいなと考えます。

(山本委員)

少子高齢化について、核家族が増え、独り暮らしの老人も増加しています。

すると、子育ての経験の不足や、子育ての知恵が伝承されないという恐れが出てきます。

少子高齢化を少しでも解消するには、子どもを生み育てやすい環境づくりはもちろん、家庭の教育力の向上とか、高齢者の英知を生かす部分も必要ではないかと思います。

生産年齢人口は15～64歳なので、私は消えています。

就労意欲を育てるには若者と女性とまだ力を持つてる高齢者の方々にも知恵を貸していただいて、やっていくことも今後大切ではないかと思います。

(蛭田委員)

まったく同意見です。

今の65歳以降の方は、昔の方より10歳くらい若いのではないかと思います。

そういう方はゴールデンエイジというか、知識有・知恵有・寛容さ有というまさに人生の実をもぎ取る時間ではないかと思います。

それを食べないということはないと思いますし、現在もシルバー人材の登録などで活躍なさっている方も存じ上げていますけれども、もっと受け皿を広く作り、教育、福祉、子育て、自然環境の保護などにどんどん皆さんに活躍していただけたら良いと思います。

(馬目委員)

老人とは年齢を重ねる人ということで、これは霊長類の中で人間だけあります。

他の動物では、老後というのはないと思います。お産をすればそれで終わり。

人間だけが産後の期間がものすごく長いのです。

なぜそういう風になったのか、という解釈ですが、人間以外には“教える”“学ぶ”ということがほとんどないのです。

例えば、サルが石を使って、何かの殻を割る。その文化だけで、後には伝わらない。

学ぶということもない。教えるということもない。

それを持っているのは人だけ。教えてもらうというのは非常に重要な分野で、教育というものは他の動物にはないとても重要なものであることを忘れてはいけないと思います。

(吉田教育長)

文部科学省で私の故郷という教科書みたいなものがあるのです。

その中に面白い標語というか句があるのですが、17歳の男の子が作ったもので、「なにもない」と思っていたあの場所に「すべてがあったと知る今日この頃」というもので、あるまちが募集した「あなたにとっての故郷とは？」というものの中で入った作品です。

子どもたちは、自分の故郷は何もない田舎だと思っているのですが、改めて、自分の欲しいものはこの町にあったんだと気づくのですね。

やはり大事なことは、教育に対する誇りとか愛情を培うために大事なことは、郷土のことや先人のことを知ること、今現在ともにある人と様々なことを一緒にすること、さらには新しく集う人との出会いというのも大事で、そういうことが合わさって郷土に対する誇りや愛情が育ち、自分の夢や希望がさらに近くなるのかなと考えたときに、やはり、先人について学ぶ機会があると良いのではないかと思います。

地域とともにある学校ということが、すごく重要になってくると思います。

今の学校は閉鎖的な部分があって、開いているとは言っているが、十分に開けていないので、そこにやはり地域の方々、様々な方々が主体となって学校を支えるという意識で一緒になって学校をつくっていくということが重要ではないかと考えます。

一方で、学校の先生方がなかなか忙しいという現状なので、教員でなければできないことは仕方ありませんが、サポートはいろんな方ができるのではないかと思います。

現在、市長に御配慮いただき、学校司書を配置していただいているが、さすがに、司書さんが来ている学校を訪問させていただくと、図書館がどんどん良くなってきている。

また、例えばスクールカウンセラーやソーシャルワーカーが定期的に来てくれる学校は、不登校の問題や様々な問題がどんどん解決していったという事実があります。

やはり教員をサポートできるそういう人たちを充実することが大事なのではないかと思います。

また、学校というのは教員ばかりではなく、地域の方々や保護者の方、学校をサポートしてくれる様々な方たちがいて、そうした方たちが、チームとなって学校づくりをしていけたら、教育先進都市と言われる学校教育の先進の姿が見えてくる。

そういう姿を私自身としてはイメージしております。

さらには、他から人を呼んでくるという話がありましたが、地元だけではなく、新たに人を呼んでくるには、やはり、教育の質の向上ということが必要であり、どんな環境を目指すのかということところは、今後議論をしていく必要があると思います。

(清水市長)

学校に関わりたい大人というのは、結構数多くいると思います。

ただ、関わり方がよくわからない、学校も、そういう人をどういう風に取り込んでいけばよいのか分からないという、システムがうまくできていないのではないかと思います。

高齢者の方々も、何か教えられることがあるのではないかと考えていても、どういう風に関わっていくかがわからないというのはあると思います。

放課後児童クラブによっては、お年寄りに、縄もじりをやらせたり、紙飛行機の作り方などを教えてもらったり、いろんなことをやっているところもありますけど、

なかなかそのシステムがうまく構築されていないということは感じます。

(山本委員)

よく聞くのは、学校の中に地域担当の先生がいたり、コーディネーターみたいな先生が、他地区ではいるというのは聞いたことがあります。

(吉田教育長)

公民館では、昔、学校支援地域本部というモデル事業をやっていて、何か学校での事業をコーディネートして、一度うまくいけば次は入りやすくなると思うので、初めのきっかけをうまく作れば良いのではないかと思います。

そして、学校側もどんどん来てもらうという体制をつくってもらえれば、なお良いのではないかと思います。

地域という主体が限定的なところがあり、老人会や婦人会という人しか思い浮かばないのですが、実は地域には企業もあるし、いろいろなものがあるので、それを地域で支えあってもらえたりすると、色んな方々にも理解がされやすいと思います。

色んな主体が子ども達を育てていくという意識を考えていくきっかけがあると良いのではないかと思います。

(山本委員)

いわき市はこういう子どもを育てているのだということが、これからのことに関わってきますけど、こういう子どもを育てているということをみんなが意識して、実施していくことが大事です。

教育メッセージを2012年に出しましたので3年経過しましたが、なかなか見てもらえないので、今回のこの大綱をつくった場合、これをみんなに見てもらい、自分も関わっているという意識を持ってもらえるようにすることが必要です。

(馬目委員)

意見に出ていた、郷土のことを社会の先生だけに教えてもらうというのは無理があると思うので、学校全体として郷土を教える、郷土を愛するというものに向かっていかないと教育として成立するのは難しいのではないかと思います。

それには、郷土愛を盛り込んだ本をつくりまして、それを全戸配布し、一軒に一冊はその本を持ち、みんなが見れるようにそういうものをつくってはどうかと思います。

偉人伝や名所旧跡など、市全体で共有するという考えに進まないと、なかなかいろいろな人に思想を伝えるというのが難しくなっていると思っています。

(吉田教育長)

現在の予算ではなかなか難しい。
来年度に向けて検討していきたいと思います。

(清水市長)

震災があつて、いわきも一時は非常に厳しい環境に置かれたわけですが、その中で、幸いにして日常生活ができるというのは紙一重だったと思いますが、その中でお子さんが、これからどのように育っていくかというのは、いわき市にとって今まで以上に大事になってくると思います。

大人も子どももいわき市というアイデンティティをいかに持てるかということが大事なのではないかと思ひます。

東京に行ったとしても、そういうプライドやアイデンティティをしっかり持っていれば、いずれいわきに帰ってきて、故郷のために頑張ろうという気持ちが強くなると思うので、そういうことを今後教育していくことが大切になってくると思ひます。

今、いろいろなプログラムがありまして、少しずつ花開いている部分がありますが、現在、教育先進都市というタイトルを掲げてやっているわけで、目標は高く設定してやっっていかなければならないと考えています。

いわき市の教育レベルは県内でどの程度かと言ったときに、福島、郡山の次、もしかしたら会津に負けているかもしれないと、そういうのを打破していかなければならないと思ひます。

いわきはすごいことをしているということを県内、国内、世界に発信していけるようになっていければいいなと思ひます。

(吉田教育長)

子どもプロジェクトということで、生徒会長サミットやいわき志塾といった取組みを行っておりますが、その中でアンケートを実施しまして、アンケートを行った結果を千葉大学の明石先生が分析してくれたのですが、その中で取り組んだ子どもたちが事前と事後で一番変わったことは何かというと、“将来いわきのために何とか自分が役に立ちたい”ということが極端に伸びているのです。

これは、特筆すべきことだということで、千葉大学の先生に、これは何かあったのかと問われたということがありました。

継続的に続けていくことで、子どもたちは確実に変わっていくという一つの検証結果が出ているので、これを今後どのように広げていくかが大切だと考えます。

(清水市長)

先日島サミットがあり、高校生応援隊 42 名よく頑張ったと思うのですが、この経験

は絶対どこかで生きてくると思います。

経験というのは非常に大事で、やったことがないことは、大人になっても身に付かないし出来ない、だから全ては経験なんです。

自分自身、学生のころに生徒会長をやっていなければ、今の立場にはいなかったと思います。

小学生・中学生の思いというのは、どこかで大人になっていく中でリンクしていく部分があると思います。

そういう意味では、子どもたちにチャンスをつくってあげる、あるいは、色々な経験をさせてあげるということは、将来伸びていくうえで、非常に大事なことだと思います。

生徒会長サミットは非常に限られた人数ですけども、そこを突破口にしていわき志塾という形になったわけですから、さらに、もう少し広げていくことが出来ればと思っています。

さらには、先日、ロボットをみんなで動かすというイベントがあって、その先生がすごいなと思ったのですが、こども達に、「君たちだって東大生に勝てるんだ！」って言うわけですよ。ふつう、「えっ!？」て思うじゃないですか。

「実際にそういう子どもたちがいるんだぞ」というのを説明しながら、「一つ一つクリアしていくことが大事なんだぞ」ということをいうわけです。

月面を走るような車があって、「みんなこれを動かせないと思うだろ、それはやったことがないからだよ。やれば動かせるんだよ。」というわけです。

そのうち簡単なことなんですけど、目標から目標まで走らせるというプログラミングをしていくわけです。

自分は全然わからないですけど、子どもたちは覚えるのが早いので、やれるようになってっちゃうんですね。

そこからその世界大会に出ていった子どもたちも実際にいるんですよ、って。

その人は理科離れをなくす会というのを創って、全国を行脚してるんですけど、いわきでもやりたいと言ったら、多少なりともお金がかかりますと言われてしまったんですが。

ヤングアメリカン東北プロジェクトの取組みのように、理科系においても、トップレベルの経験をさせていくのも非常に素晴らしいことじゃないのかと。

これからのいわき市の人材育成の中に、理系っていうのはものづくりの分野には、絶対に必要な分野だと思うので、今から経験させ将来に向けて育てていくっていうのもありなんじゃないかと思っています。

(清水市長)

教育委員会さんをお願いしたいのですが、チャレンジシートみたいな、目標設定を自分でして、例えばプロ野球選手ならばなるためには高校時代には何をしなければいけな

いか、中学時代は何をしなければいけないか、ということ逆算していくという自分なりに思い描いていくというものなのですが、そういったものをうまく活用して、自分の目標に向かっていくということができないかなと思っています。

トップはトップで育てていくことが大事でありますけども、同時に、子どもの落ちこぼれをなくしていく、ということも同時並行でやっていくべきことではあります。

(根本委員)

そういう取組みに関しても、やはり、一番は学校の先生なのかなという風に思うのですが、やはり範囲が広すぎるといふ所があると思いますので、学校司書さんですとか、サポートをするということに目を向けることが大切だと思います。

(清水市長)

教育長とも話をしているのですが、学校司書、とりあえず小学校は1週間に1回は最低でも行くようにしているのですが、その効果を検証しないと次のステップに進まないもので、例えば、中学校にも広げるにはそれなりの予算が必要です。その裏付けとなる結果が必要だと思います。

学校図書館がこんなに変わったというコンクールとかプレゼン大会でもいいですけど、そういうものがあって、図書館がビフォーアフターでこんなに変わったというのがあれば、そんなに変わるのであれば、予算をつけて中学校まで広げようということになっていくんです。

やはり説明責任も必要なので、ただ単に増やしていけばいいというものではないので、どこかで立ち止まって検証していく、というのが必要だと思います。

(吉田教育長)

学校もホームページを開設し、良くなっておりますが、誰でもアクセスができるようになり、いろいろと交信していこうという流れになってはいますが、学校の様子を保護者の皆さんに、地域の皆さんに伝えようとしているところが見受けられます。

(清水市長)

学校間でも一生懸命やっているところとそうでないところ、そうでないところでもどうやったらいいかわからないところがあり、あそこの学校でこんな風にやっているんだったらうちも真似してみようかなって、お互いにレベルアップしていけばいいなと思っています。

(山本委員)

学校の話を書きますと、ホームページにおいて、アクセスできるようにいろいろと更

新していこうとしているところがあって、学校での様子を保護者の皆さんに伝えていこうとするところが見受けられますよね。

今後、もっと努力していかないといけないですね。

図書館については、本当によくなったと思います。

(馬目委員)

コンピューターと本との違いは、本は読んで考えることができるところが最大の特徴で、コンピューターは多くの知識を得るといえるものだと思います。

本を読むということは、それだけ考える力が身に付くということです。なので、本をたくさん読んでもらうということが非常に良いことだと思います。

図書館を充実させるというのは非常にいいと思います。

(清水市長)

就任して2回の予算編成を行ったのですが、教育委員会に対しては、財政の査定が厳しい面があると思います。

そういう背景があって、自由に使えるお金があった方がいいだろうということで基金を作ったわけですけども。

例えば、ヤングアメリカンがどのような効果があるのか説明が難しい。

全部の子どもたちがやれる訳ではないですから。

でもあれを経験した子どもたちはどこかで変わっていきますよね。

いろんな分野の経験をいかにさせていくか、その中で好き嫌いを経験させ、自分の将来の方向性も見いだせるように様々なチャンスをつくってあげることが大事だと思います。

(山本委員)

子どもにも同じようにチャンスを与えてあげられるようにしなくてはなりません。今、心配しているのは、大人の所得などによって、子どもの教育環境が経済状況に左右されるということも考えられるので、どの子にも平等にチャンスを与えるというのは、行政や企業にも協力をしてもらいたいですね。

(清水市長)

経済格差が教育格差になってはいけないということですね。

そういう意味でも、いろんな機会・チャンスを数多く作ってあげることだと思います。

先程のロボットの先生が言っていました、「チャンスというものは必ずしも平等ではない」というわけです。

「君たちはある意味選ばれてここにきてるわけだから、あくびなんかしてる暇はない

だろう。」と、すごいな、と。

そのぐらい気合をいれてやらないと、子どもも真剣にならないし、やるほうだって真剣にならないです。

最先端というかトップクラスの授業や経験をさせてあげることが大事ではないかと思います。

私は、今こういう立場にさせてもらって、若くして国会議員の秘書になり、総理大臣がすぐ近くにいたり、中央官僚の方と対等に話をしたり、そういった経験があったからこそ大臣に会っても平常心でいられたと思います。

このように、子どものころに経験をしていれば、大人になってからなんとも思わずにいられるし、すんなりとその世界に入っていけると思います。

何事も経験だと思うし、トップクラスの人と関わるということは、大人になってから、何かしらの糧になるはずですよ。

この前、ロボットの助手も彼は東大生なんだよ、と軽く言っていましたが、普通東大生なんて見かけたことがないと思いますが、子どもが、この人は東大生なんだけど、僕とそんなに変わらないな、自分も東大に行けるかもと思えるかもしれないです。そういう経験を数多くさせてあげたいなと思う。

色々なチャンスを与えられるいわき市にしていきたいと思います。

それにはお金がかかりますので、予算内で充当できないのであれば、民間の方から寄付をいただいたりすることも発想としては良いのかなあとと思います。

例えば企業から人材育成ならばお金を出しますといったところもあると思います。

この前も理科系の子ども達を育てるプログラムを行ったので、モノづくりの観点から賛同してくださる企業もあると思いますし、そういう風にお金を充当していくというのも一つの考えだと思います。

そういう意味では、教育委員会は震災後いろんなところからお金をもらいましたよね。上手でしたね。

(吉田教育長)

学校も努力をしていたみたいで、校長先生が自分でうまくやったところもあるみたいです。

(清水市長)

努力したところとしていない学校で差がでてしまいますね。

(根本委員)

校長先生の意識とか取り組みというのは大事ですね。

(清水市長)

そんな中で、いわき市に生まれてよかったと思ってもらえるような教育を目指して、会議の回を重ねていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、会議の席だけでなく、事務局はやる気満々なので直接行って話してもらってもいいです。

(根本委員)

市長の話聞いて思ったんですけど、何かやるときには、みんなに知ってもらって、これだけ成果があるんだよというのがなくてはいけない。

(清水市長)

それがないと、あくまで予算は税金ですから、市民の皆様の理解を得るためには、必要であると考えます。

(根本委員)

教育委員会の中で、いわき志塾の話が出て、市内の中学校の中で温度差があるとか、出席が少ない学校があるということがあるので、私たち教育委員会も、文書の説明だけではなく学校訪問に行った際には、校長先生に説明をしたり、売り込みをしている所なので、私たちもお願いをするだけではなく、自分達でも発信していくことが大切だと思います。

(清水市長)

話は違うのですが、来年いわき市50周年ということで、企画・アイデア募集ということで、96件アイデアが来ました。

その中で、1次審査を通過した15件が、先日文化センターでプレゼン大会をしました。

その際、大人が汗をかきながらプレゼンをしていました。

日本人はそういうアピールの仕方が下手なので、子どもころからそういう体験をしていた子どもとそうでない子どもでは違いが生じると思います。

特に、国際会議に行くと、日本人は英語が話せないのが、原稿が棒読みになったり、ただ、面白おかしく話して終わってしまうという傾向が強いと思うのですが、言葉なんて話せなくても通じるものは通じるのですよね。

通じなくても、あいつは面白いなと思ってもらえるだけでもいいわけで、そういうようなことを小さい時から経験をしていると、大人になってからガラッと変わるとは思います。

やはり、3分間スピーチでも学校で経験して、アピールが上手にできるように練習を

することも大切ですね。

(新妻行政経営部長)

そろそろお時間となります。

結びに、我々、行政経営部地域創生課が事務局となりますけれども、教育長をはじめ、教育委員会事務局の皆さん、こどもみらい部のみなさんとともに頑張っていきたいと思っています。

いわき創生につながる部分が相当ありますので、一緒になって考えていきたいと思っていますので、よろしく願いしたいと思います。

ありがとうございました。